

会議録

会議の名称	令和3年度第2回川越市上下水道事業経営審議会
開催日時	令和3年10月11日(月) 午後1時55分 開会 ・ 午後4時40分 閉会
開催場所	中央公民館 3階 軽体育室
議長(会長) 氏名 *敬称略	議長:青木 亮(会長)
出席者(委員) 氏名(人数) *敬称略	青木亮(会長)、佐野勝正(副会長) 須賀昭夫、柿田有一、吉野郁恵、高橋剛、大泉一夫、小ノ澤哲也、 小野澤康弘、山崎宏史、加藤榮壽、安藤敏子、棚沢利郎、町田明美、 横山三枝子、小池均、正木一弘 の各委員(17名)
欠席者(委員) 氏名(人数) *敬称略	新井正司 委員(1名)
事務局職員 氏名(職名)	大成一門(上下水道局長) 【財務課】 高木康行(参事)、矢野雄一(副課長)、馬橋洋(副主幹) 【給水サービス課】 原雄二(課長) 【事業計画課】 小林武(上下水道局副局長)、北原章弘(副課長)、田中誠一(主幹)、 田中能彰(副主幹)、石塚直子(主査) 【水道課】 新井賢一(課長) 【下水道課】 駒井和久(課長) 【上下水道管理センター】 石戸祐仁(所長) 【総務企画課】 内田真(上下水道局副局長)、飯野弘美(副課長)、阿出川一斉(副主幹)、 高梨義久(主査)、児玉陽介(主査)、小林泰貴(主事)、荒井咲樹(主事補)
傍聴人(人数)	2名
会議次第	別紙のとおり

配布資料

(事前に配布した資料)

- 資料1 水道事業会計 令和2年度決算の概要について
- 資料2 公共下水道事業会計 令和2年度決算の概要について
- 資料3 令和2年度川越市上下水道ビジョン進行管理 事業評価
- 参考資料1 水道事業会計 令和3年度予算の概要について
- 参考資料2 公共下水道事業会計 令和3年度予算の概要について

(当日の配布資料)

- 会議次第
- 令和2年度水道事業年報(冊子)
- 令和2年度下水道事業年報(冊子)

議事の経過	
発言者	議題 ・ 発言内容 ・ 決定事項
	<p>1 開会</p> <p>事務局より、委員18名のうち17名が出席しており、出席者が過半数に達しているため、川越市上下水道事業経営審議会条例第5条第2項に基づき、会議が成立している旨の報告がなされた。</p> <p>また、議題に先立ち、水管橋に関する事故報道が数件なされていることを受け、川越市の状況について上下水道局長より報告がなされた。</p>
会長	<p>開会の挨拶（青木会長）</p> <p>※以降は青木会長が議長となり議事を進行。</p>
議長	<p>【傍聴者の確認】</p> <p>議長から傍聴希望者の有無について確認が行われ、事務局より1名報告がなされた。</p>
	<p>【傍聴者1名が入室】</p> <p>※その後、議題（1）の進行途中で傍聴希望者がさらに1名来場したため、入室させた。</p>
	<p>2 議題</p> <p>（1）令和2年度決算の概要について</p>
事務局	<p>[資料1、資料2に基づき説明]</p>
委員	<p>新型コロナウイルス感染拡大の影響を考慮し、業務委託料などを支障のない範囲で削減したとのことですが、この削減は今後も可能なのでしょうか。あるいは収束した場合、削減は難しいのでしょうか。</p>
事務局	<p>新型コロナウイルス感染症の拡大を考慮した一時的な対応となります。</p>
委員	<p>削減した分は、職員の方々がある程度通常以上のお仕事をされたということでしょうか。</p>
事務局	<p>緊急性が低いものを抑制させていただいたので、その分職員の仕事が増えるといったことはあまりないと考えています。</p>
委員	<p>公共下水道事業会計について、純利益を出すことができた主な要因が、過払い金の返還金であり一時的なものと記載されていますが、詳細を説明</p>

	<p>していただけますか。</p>
事務局	<p>平成25年度から平成30年度の流域下水道維持管理負担金について、埼玉県が処理水量を二重に計量していたことが判明したため、その分を返還していただいたものです。</p>
副会長	<p>水道事業会計の資本的収支について、建設改良費の予算に対する執行率が低いですが、事務局としてどのように受け止められていますか。</p>
事務局	<p>水道課発注の工事について、昨年度入札不調が5件あり、金額的にも大きかったことから、この点が影響していると考えています。</p>
副会長	<p>執行率が低かったことで、将来に何か影響するのでしょうか。</p>
事務局	<p>予算計上したものは、当然満額執行したいのが上下水道局としての考えです。繰越や計画の延期は、予定している老朽管の更新率に届かず、将来の負担が大きくなりますので、発注時期の平準化や事業者へのヒアリングなどを通じ、予定どおりの予算執行ができるよう、今後も務めていきたいと考えています。</p>
副会長	<p>通常、会社の決算だと利益が出ればそれでおしまいますが、上下水道事業の場合、市民生活に直結するので決算の数値がよければよいというものではないと思います。公会計では、世代間負担の問題も非常に重要ですので、耐震化や老朽管の更新など本来やるべきことができなくて結果として利益を出しているのか、本来やるべきことをしっかりとやると、利益が足りず価格改定が必要なのか、そのあたりの考えを示していただいて、本審議会で協議してもよいと考えています。</p>
事務局	<p>基幹管路の耐震化や老朽管の更新については、水道の安定供給に関わることであり、多くの資金が必要となりますので、今後は今のご意見を含め、早めに計画をもって進めていきたいと考えています。</p>
委員	<p>内部留保資金が増加しているとのことですが、災害時は復旧にどの程度の費用を想定しているのでしょうか。また、令和4年度に水道料金を値上げしなかった場合、赤字になるという話を本審議会で聞いたことがありますが、料金の値上げについてはどのように考えているのでしょうか。</p>
事務局	<p>上下水道事業経営戦略では、水道事業の投資・財政計画における内部留保資金を、災害復旧費・企業債償還金・受水費を踏まえ、25億円以上に設定しており、災害復旧費については、熊本地震を参考に算出しています。</p>

事務局	<p>水道水を提供するための費用を水道料金で賄えていない状況もあるため、今後はそういったことも勘案したうえで、本審議会にて慎重にご相談させていただき、必要であれば料金改定を見据えた検討を皆様方をお願いしたいと考えております。</p>
委員	<p>一般の方は、水道料金がどのように使われているのか理解されていない方が多く、料金の値上げに関しても否定的な方が多いかと思います。下水道も含めて料金の使途や老朽化の進行による影響等についての啓発を行わないと、その声は大きくなっていきます。ただ、実際に老朽化は進行していますし、管などが壊れると困りますので、そういった活動はお願いしたいと思います。</p>
事務局	<p>水道水の安定供給のためには施設の計画的な更新が必要ですので、いただいたご意見を踏まえ、市民や利用者の皆様に広く周知していけるよう今後検討していきたいと考えています。</p>
副会長	<p>料金値上げはしてほしくないのが皆さんの本音ですが、それでは問題の先送りになります。上下水道の安定供給のために必要なことや場合によっては赤字幅が増加することについて、皆さんにしっかりと理解していただく必要があると思います。</p> <p>このことについては検討ではなく、実態を分析し時期を踏まえて具体的なプランを考えていく必要があると思います。</p>
委員	<p>現在でも上下水道局だよりなどで啓発はされていますが、これを皆さんにどこまで見ていただけるのか、他の媒体も含め、どういった方法が一番効果的なのか、考えていただきたいと思います。</p>
事務局	<p>現在は様々な媒体がありますので、これまで以上に多くの方に周知できる方法や手段について考えていきたいと思っています。</p>
委員	<p>水道事業については、供給単価と給水原価の比較で差損が出ているため、マイナスの部分をごどこかで補填しなければならず、また、収益的収支では人口減少に伴い給水収益が減少するという状況があります。</p> <p>今後は、地域人口による費用対効果や公平性を担保しながら、災害時に備えた耐震化を進める必要があります。地域ごとに水道料金を設定したり、外国のように民営化することは大きな課題があると思いますので、このような矛盾的状况の中でどのようにして水道事業を維持していくのか、お考えを聞きたいと思います。</p>
事務局	<p>計画の立場から今後の見通しについて説明させていただきます。</p>

事務局	<p>水道管の総延長約 1,500km のうち、老朽管率は約 26% であり、率は年々増加しています。また、耐震化率は約 24% であり、現在の更新率では 100 年経っても完了しないことになるので、災害時に避難所となる施設や防災拠点、災害拠点病院などへの幹線を重要施設配水管として位置付けており、優先的に耐震化に取り組んでいます。</p> <p>浄水場についても、今後配水量が減少することを踏まえると、スリム化を当然視野に入れる必要があるので、限られた人員・財源の中でどのように持続可能な上下水道事業を実現するのか、その課題に対する対応については今後本審議会に報告させていただき、ご意見をいただきたいと考えています。</p>
委員	<p>資料 2 の 6 ページに管渠老朽化率が 10.21% と記載されていますが、下水道についても同様の考え方という認識でよろしいですか。</p>
事務局	<p>下水道については過去に布設した延長が今後更に増えていくため、5 年後の管渠老朽化率は 20% となる見込みです。</p> <p>そのため、水道と同様の考え方で、耐震化等の工事も施工していますが、現在は災害時に緊急車両が通る道路から優先的に耐震化の向上に取り組んでいる状況です。</p>
委員	<p>水道事業、公共下水道事業ともかなり厳しい状況にあることはわかってきており、将来川越市が負う負担は大きいのでは、と感じています。こうした事情や災害時における状況、どのように事業を進めるのかというビジョンについて、転入者も含めてしっかりと市民に周知する必要があると思います。そういった理解がないと、市が何か大きなことを実施しようとした際、市民の同意は得られないと思いますので、よろしくをお願いします。</p>
委員	<p>水道事業年報に用途別口径別使用水量及び使用料が掲載されていますが、小さな口径が家庭用用途という認識でよろしいでしょうか。また、料金は実際の使用水量によって違ってきますが、世帯当たりの使用量に関する統計はあるのでしょうか。</p>
事務局	<p>13mm、20mm が概ね一般家庭で使用されている口径で、25mm 以上は主に法人で使用されている口径になります。</p> <p>前者については、新型コロナウイルスの影響による手洗いやうがい、在宅勤務の増加や外出自粛等の影響により昨年度の使用水量は大幅に増加しましたが、後者についてはテレワーク、営業縮小、時短営業等の影響で大幅に減少しています。こちらについては、令和元年度までには見られない傾向であるため、新型コロナウイルスによる影響であると考えています。</p> <p>なお、使用量については口径ごとに統計をとっています。</p>

委員	今後、料金改定等を検討し審議会に諮る際は、そういった統計値も必要になるかと思しますので、継続的に行っていただきたいと思います。
議長	開始から1時間以上経過しましたので、議題（1）につきましては一旦ここまでとさせていただきます、ここで10分間の休憩を入れたいと思います。午後3時20分から再開とさせていただきます。
	— 休 憩 —
議長	（2）令和2年度川越市上下水道ビジョン進行管理 事業評価について 議長より、参考資料1、参考資料2（令和3年度予算の概要について）については、次第の「3 その他」にて取り扱う旨の説明がなされた。
事務局	[資料3に基づき説明]
委員	評価指標について、残念ながら2年連続で目標を達成できていない項目がいくつかあります。3年連続で未達成というのはあまりよろしくないと思しますので、ぜひとも具体的な改善策を練っていただき、次回の評価に向けて目標達成を目指してほしいと思います。 また、シート7・8について、環境にやさしい自動車の導入やエネルギー効率の高い機器の導入を検討されたとのことで、おそらくこれらの数値が改善されれば、目標を達成できると思いますが、今年度以降の見通しについて差し支えない範囲でお聞きしたいと思います。 なお、シート14において、水道事業の業務継続計画（BCP、地震編）を昨年度策定したと記載されていましたが、次回、概要についてお聞きできればと思います。こちらは要望です。
事務局	CO2の排出量が目標値を下回った原因は、浄水場の電力使用が主な要因です。昨年度は令和元年度に比べ水道施設の電力使用量が約29万kWh、率にして4.5%増加しています。こちらについては、年間配水量の増加に伴い、地下水の取水量を増やしたことが主な要因だと考えており、昨年度の取水量は令和元年度に比べ約78万m ³ 、率にして16%の増加となっています。今後は、浄水場の運転効率を高める方法や設備更新にあたってインバータ制御の効率の良いものを積極的に導入することを検討していきたいと思います。
委員	自動車に関してはどの程度の効果が見込まれるのでしょうか。
事務局	毎年予算の時期になると、新車への入替について要望が上がりますが、順次数台を更新することになりますので、買い替えによる目標達成には時

	<p>間を要すると考えています。</p> <p>なお、今年度の取組として、使用頻度の少ない自動車もあることから台数を減らしていきたいと考えていますので、そういったところから徐々に目標達成に向け努力していきたいと思います。</p>
委員	<p>様々な取組の組み合わせでないと目標達成は難しいと思いますので、引き続き努力していただければと思います。</p>
委員	<p>国の方針として、2030年にCO2排出量を46%減とする目標が定められています。具体的なエネルギー政策は発表されていませんが、省エネをさらに進めていく必要があります。</p> <p>このような中、シート7にある評価指標は令和元年度から数値が増加しており、このままでは目標達成は難しいと思いますので、少し野心的に削減に向けた努力をされた方がよいと思います。</p> <p>また、シート10の下水道接続率について、令和7年度までに生活排水処理率100%を目指すとなると、現状では目標達成は難しいと思います。未接続対策は、収益に直結する極めて重要な課題ですので、何か具体的な方策があれば教えていただきたいと思います。</p>
事務局	<p>CO2の削減に関しまして、今後は電気自動車の導入なども見据えて取り組んでいきたいと思います。</p> <p>また、現在は市街化調整区域の下水道整備に努めていますが、合併処理浄化槽などにより既に水洗化されている方にとっては二重投資が原因で下水道への接続が先延ばしになっている状況があります。</p> <p>一方で、上下水道局としても貴重な財源で下水道を整備していますので、接続のメリット等について、様々な機会を捉えてPRしていきたいと考えています。</p>
委員	<p>下水道整備については、新たに整備したエリアの収益を見込んでいますので、予算財源という観点からも、もう少し頑張って努力していただきたいと思います。</p>
委員	<p>シート4について、昨年度は県水転換率を86%に抑えて自己水の活用が増えたとのことですが、川越市の住民としてはもう少し自己水の活用が増えると嬉しく思います。</p>
事務局	<p>現在、県水の割合を運用当初の一律90%から80%台に引き下げ、自己水比率を高める協議を埼玉県と実施しています。</p> <p>昨年度の自己水比率は、コロナ禍の影響により一般家庭での使用量が大きく増加したため、県水受水量で賄えない分を補った結果、変則的に増加</p>

	<p>したものです。浄水場の負荷や電力使用量の増加といったことはありますが、川越の地下水が美味しいということは承知していますので、いただいたご要望を踏まえ、水運用について埼玉県と協議していきたいと思います。</p>
<p>委員</p>	<p>現在、香料の入った柔軟剤などが多く普及しており、香害により気分を悪くする方が多くいます。若い方が住む新興住宅地などでは、すごい香りがするように感じます。香料の化学物質が汚水として下水道管を流れ、水循環の過程でどのような影響を及ぼすのか、水質に影響はないのかといったことが気になりますが、市としてどのように考えているのでしょうか。</p>
<p>事務局</p>	<p>あくまでも基準の範囲内ということにはなりますが、浄水の水質管理と共に下水についても特定事業所に対して基準値以下の排水をしているか水質検査を実施し指導しています。</p>
<p>委員</p>	<p>一般家庭の洗濯水が下水道に流れる中ですごい香りがするという現実があるので、少し質問させていただきました。おいしい水はどのような水なのか、ということについては啓発できると思いますがいかがでしょうか。</p>
<p>事務局</p>	<p>啓発となると少し難しいところもありますが、水質検査の観点から説明させていただきますと、水道法で定められている検査項目は51項目あり、毎年水質検査計画を立てて実施しています。検査項目には味や臭気、残留塩素に関するものもあり、全て適正で安全だということを確認し配水していますので、一般家庭からの化学物質等の影響はないものと考えています。</p> <p>また、地下水につきましても、水道法以外の努力義務ではありますが、定期的に水質検査を実施し、安全性を確認しています。</p>
<p>委員</p>	<p>先ほど水管橋に関する報告がありましたが、道路に添架されていない単独の水管橋は市内に何箇所あるのでしょうか。また、地震等による影響はあるのでしょうか。</p>
<p>事務局</p>	<p>入間川の増形地区に入間川水管橋が架かっており、埼玉県の750mm管が2本、川越市の600mm管が1本、合計3本が添架されています。維持管理については、協定を締結のうえ埼玉県が実施しています。</p> <p>また、県水のうち埼玉県の大久保浄水場から中福受水場に送水されているものは入間川以東に、同じく県の吉見浄水場から霞ヶ関第二浄水場に送水されているものは入間川以西に配水されていますので、断水家屋は発生しない運用となっています。</p> <p>その他にも、入間川を跨ぐ県道にも水管橋が添架されており、通常はバルブを閉めています。非常時は使用できますのでリスク分散されています。なお、メンテナンスとしては、電食による腐食を防止するため、防食</p>

<p>副会長</p>	<p>という形で県が維持管理をしており、その他には目視点検を2箇月に1回実施しています。</p> <p>評価指標の目標を達成していなくても総合評価Aの事業がありますが、評価の客観性をどのように担保しているのでしょうか。また、シート14に災害対策訓練の実施回数が1回と記載されていますが、災害の発生を考えると実施回数について少し考えたほうがよいと思いますし、地域性を考慮して実施場所の追加についても検討してほしいと思います。</p> <p>また、事業評価シートの記載方法についても検討してほしい箇所があります。例えば、シート17の新たな技術の活用について、取組実績として「検討しました」「調査しました」と記載されていますが、本ビジョンがどのように経営に活かされているのか、という観点からの記述も必要だと思います。</p>
<p>事務局</p>	<p>総合評価にあたっては、計算式に基づき点数を算出し、それに基づき評価をしているため、下限に近い点数でA評価となった事業もあります。ご指摘いただいた点につきましては、今後改めてご相談させていただきたいと思います。</p> <p>また、災害対策訓練については、現在は年1回での運用としていますが、回数については今後内部でも検討していきたいと思います。</p>
<p>事務局</p>	<p>上下水道管理センターでは、停電時に発電機を動かす訓練や発電機燃料の漏洩訓練などを今年度実施しました。技術継承のため運転管理業務の委託業者や職員もすべて参加しています。</p> <p>また、新たな技術の活用については、令和5年度、令和6年度に実施する新宿浄水場の電気機械設備の更新工事に向け、設計業務を今年度委託しています。その中で固定速ポンプをインバータポンプにした場合の効果について比較検討しており、今後の更新工事に活かそうと考えています。</p>
<p>副会長</p>	<p>本ビジョンは、何かしらの考えをもって取り組むものですので、ただやった、というだけではなく、結果的にどうなったということも事業によっては記載する必要があると思いますので、来年度以降検討してほしいと思います。</p>
<p>事務局</p>	<p>3 その他 令和3年度予算の概要について [参考資料1、参考資料2に基づき説明]</p>
<p>副会長</p>	<p>水道事業会計の令和3年度予算について、収益的収支の事業収入は65億円となっていますが、令和2年度決算では62億円位になっています。</p>

	<p>決算額が出てから予算を調製するのは難しいと思いますが、過去の実績だけではなく、こうしたトレンドを見ながら予算を考える必要もあると思います。そのような配慮をしていかないと、予算と決算の乖離が広がることもありますので、お願いしたいと思います。</p>
事務局	<p>今いただいたご意見を重視しながら、予算編成に取り組んでいきたいと思っております。貴重なアドバイスをありがとうございました。</p>
議長	<p>他に委員の皆様から、全体を通じて何かご意見ご質問等ありますか。</p>
委員	<p>－ 質疑なし －</p>
議長	<p>そうでしたら、事務局からお願いいたします。</p>
事務局	<p>事務局より以下のとおり説明する。 ・次回の本審議会は、令和3年11月2日（火）午後2時より、本日と同じ中央公民館3階軽体育室にて開催する（開催通知も同時配付）。</p>
副会長	<p>4 閉会 閉会のことば（佐野副会長）</p>